

人権だより No.287(2022.1)

「ポリティカル・コレクトネス」から考える人権感覚を高めるために大切なこと

研究情報図書部 課長 大竹 悠平

「Ladies and Gentlemen! Boys and Girls!」一度はどこかで耳にしたことのあるフレーズではないでしょうか?このフレーズが昨年(さくねん)の3月にニュースになりました。どのようなニュースかと言いますと、東京(とうきょう)ディズニーランドと東京(とうきょう)ディズニーシーの園内アナウンスで使われてきた先程(さきほど)のフレーズが変更された、というものです。なぜ園内アナウンスは変更されたのでしょうか?その答えは、変更後の新しいフレーズにあります。現在使われているフレーズは「Hello, Everyone」……つまり、性別を特定しない文言に変更し、性的マイノリティーの来園者にも配慮した表現になったというわけです。こういった形で多様な性自認・性的指向の人々に対する理解が深まっていくことはとてもよいことではないでしょうか。

こういった「言葉」に対する問題提起が増えている背景に「ポリティカル・コレクトネス」の考え方が広がっていることが挙げられています。これは、特定の民族や人種、宗教、性別、職業、年齢などに対して差別的な表現を避けることを指す言葉で、不快感を覚えたり、一見問題がなさそうでも今後の差別につながったりしそうな可能性がある言葉や表現を選ばない、という姿勢や考え方のことです。例として、私が学生の頃は「看護婦」「保母」と呼ばれていた職業が今では「看護師」「保育士」と言い換えられていること、また、英語でも警察官を意味していた「policeman」が「police officer」に、消防士を意味していた「fireman」が「firefighter」へと変化していることなどが挙げられます。しかし、このような比較的、ポジティブに思える話題ばかりではなく、ポリティカル・コレクトネスへの配慮が足りないことから問題も起こっています。

例として、とある俳優によるバラエティー番組での「嫁」という言葉を用いた発言が批判を浴びたことがありました。これは「嫁」という言葉は、家事は女性がするものという風潮を肯定する言葉であり、好ましくないという指摘からくるものです。その一方で、「悪気があって使ったわけではない」「言葉狩りだ」といった擁護の声もあり、一時期SNSのトレンド入りをするほどでした。

このニュースを聞き、私は「ポリティカル・コレクトネス」という考え方についてより深く考え、勉強するようになりました。まだ独身ではありますが、「嫁」という言葉に、良くないイメージがあることは

知っていました。しかし、この俳優が悪気なく発した一言がこれほどまで話題になり議論されることだとは考えが及ばず非常に恥ずかしく感じました。SNS等により、一般人も手軽に意見を発信できる時代だからこそ、自分の発言が誰かを不快にしたり傷つけたりしないかを私自身も意識していきたいし、みなさんにも気をつけてもらいたいと切に願います。

ただ「気をつける」と口で言うのは簡単です。実行に移すことが大切ですが、そのために重要なことは何でしょう？私は「知識をつけること」ではないかと思えます。「嫁」という言葉一つをとっても、この言葉にネガティブイメージがあることを知らなければ気をつけようがありません。たとえ悪気がなくとも、自分が無知であるが故に他人を傷つけてしまう可能性があるということです。「知る」ということが何かアクションを起こすときの力になるはずで、さて、宇和島南では年に4回、人権・同和教育の学活・HRの時間があります。この時間はその絶好の機会です。しかし、この4コマだけではなく、普段の授業を始めとする学校生活すべての場面（一見関係のなさそうな数学の公式を学んでいるときですら）にそのチャンスがあるのではないかと私は思っています。何気ない日々のなかでも何かを学ぼうとする意識こそが自身の人権感覚を高めるための第一歩ではないでしょうか。

【6年生の人権委員より 後輩の皆さんへメッセージ】

- ・私は5年時に人権委員となり、1年間人権委員長を務めました。委員として地域の活動に参加する中で、たくさんの人と話す機会があり、自分の視野を広げることができました。コロナ禍で多くの制約がある中でも、自分から発信することができたので、今後も『人権の輪』が広がっていくように、後輩たちにつなげていってほしいと思います。（旧人権委員長 神森 菜那）
- ・私は人権委員としてボランティア活動に参加し、その中で人との関わり大切さや人への思いやりなどを学ぶことができました。これからは、人権委員だけでなく、全校の多くの皆さんに参加してもらえたら嬉しいです。（旧副委員長 大江涼香）
- ・6年間の人権・同和教育活動で、今も残る差別やコロナ禍での人権問題について、ホームルーム活動で深く考えることができました。また、シトラスリボンプロジェクトなどを通して、実際に活動する大切さも学びました。（高橋 駿）
- ・いじめや差別は自分たちに身近なものですが、普段あまり考える機会がありません。しかし、人権・同和教育活動を通して思いやりを持って人と接することが大切だと感じました。卒業後は就職するので、お客さんや上司との接し方など人間関係が特に大事になってきます。まずは自分から、思いやりをもって人と接するよう心がけていきたいです。（水野 祥太郎）
- ・6年間学んできましたが、自分が知らない人権問題が多くあることに気付きました。夏休みには、「宇和島市人権委員会交流学習会」に参加し、実際に結婚差別を経験された方のお話を聞いて考える機会を持つことができました。これからも、まずは自分が学び、正しい知識を持った上で、周りの人にも知らせていきたいです。（宮瀬 こはる）
- ・ホームルーム活動を通して、人権問題について考えることができました。今年度は結婚差別について学び、どのように解決していけばいいかを考えました。学んだこと、考えたことを今後の自分の生活に生かしていきたいです。（船田 悠斗）
- ・人権・同和教育のホームルーム活動を通して、多くのことを学びました。6年時には人権委員として、人権・同和教育ホームルーム活動に、より真剣に取り組むことができました。6年間で学んだこと、感じたことを忘れず、これからも行動しようと思います。（河野 泰生）